

# 2021年競技規則改訂(足着きゲート通過)に関する判定基準

ver. 2021.06.19

競技者がゲートの背面側から近づき、少なくとも一つの車軸がゲート背面側にある間に、足を障害物/地面に置き、その足を用いてゲートを通過する場合(5点)

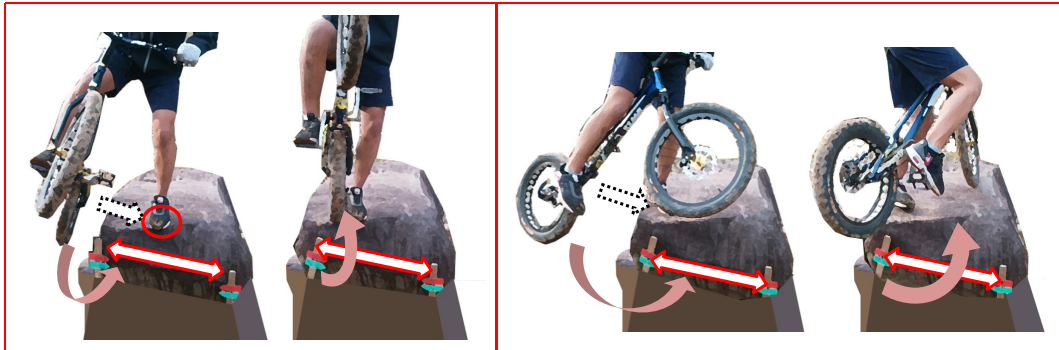


図 1-a

背面側から近づき自転車だけ立てて通過  
5点

図 1-b

背面側から近づき自転車だけ回し入れる  
5点

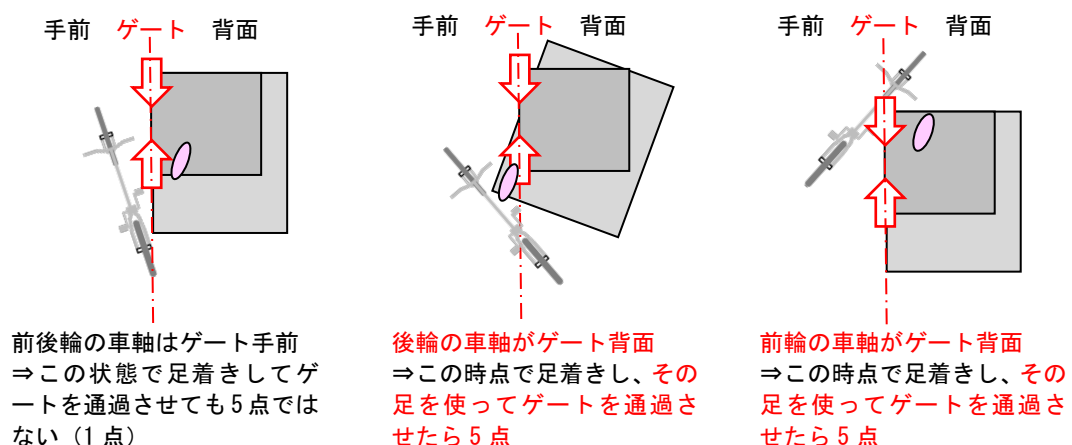
## ※2021年改訂で判定に際しての具体的な状態説明が追加

### 【解説】

「背面からゲートに接近して足着きしながらゲートを通過させたら5点」という状態を、より詳しく示したものです。

改訂前は位置関係が少し不明瞭でしたが、**車軸が前後輪ともゲートの手前にある時点で足着きをして、その足を使ってゲートを通過させる場合は5点にならない**ということです。(足着き1点なので、そのセクターでポイントは獲得できませんが)

足着きをした時点で「前後の車軸がどこにあるのか？」が判定のポイントです。  
どこに足を着くかは(ゲートの手前でも背面でも)関係ありません。



### (参考)

前後輪どちらか一方でもゲートの背面側に車軸がある場合、その時点で足着きたら、その足を使ってゲートを通過させることはできません。(足を着いた時点では1点)

※そのようなケースで仮に足着きした場合、ゲートの手前側に前後の車軸を移動させ、足を着きなおしてからゲートを通過させることは可能です。ただし、足着き2点となりますし、もちろんそのセクターでポイントは獲得できません。

体

**1点**

片足着き

・障害物や地面に支えをとった場合 (荷重がかかる)

・荷重がかからない接触ならOK

体の一部分  
ひざ  
ひじ  
腰  
肩  
等々..

ただし

**5点**

地面でも障害物でも  
両足着き 5点  
(足首～靴底)

お手着き 5点

地面でも  
障害物でも

手首から先

ハンドルを握ってたら1点

障害物

地面

上半身の一部分が地面につく  
地面や障害物に座る

落車5点

**2点**

ズリ~

2点 1点

1点 1点

合計2点

長区間など  
↑故意とみなされれば追加ペナルティも  
(反スポーツ的行動としての別ペナルティ)

1点

1点 合計2点

※両足着きではない

ついた足の回転は軸を変えなければ1点のまま  
軸を変えたら2点

1点 → 1点 → 1点

2点

**体の4部分**

体は図のように4部分に分けられる

- 1 足 (足首から先)
- 2 下半身 (足首から腰まで)
- 3 上半身 (腰より上、腕と頭を含む)
- 4 手 (手首から先)  
(手が触れている場合はハンドルバーも含まれる)

★ 同じ部分が複数箇所についても1点 (ヒジと頭と肩でも1点)

★ 両足の場合は5点

自転車

1点

ペダル着き1点の状態から爪先や踵が着くのはOK

車軸がテープを越えなければタイヤが外に着いてもOK!

**1点**

タイヤ以外が障害物や地面で支えた場合 (足着き時は除く)

※荷重がかからない擦りや接触ならOK

**2点以上**

タイヤ以外の複数箇所の接触  
ペダル・クランク・ガード等が支えをとった場合  
接触箇所分の加点となる  
(ただしペダル・クランク・ガードが同時に接触しさらに同時に離れた場合は1点とする)

※テープ・アロー・ゲート以外に関しては一発5点となるような規定はない

**5点**

※アロー中心線が基準

テープがある場合は  
タイヤが一本橋上でも  
車軸が空中で出たら5点

テープやアローを車軸が空中で超える (自転車の中心線も同様)  
他クラスのアローでも5点

車体中心のどちらか一方に両足があり片足が足着き:5点

・他クラスゲートへの進入 (前後の車軸が判定基準)  
※テープとアローの間はフリー

・順番とばしをしてアローやゲートを通過  
・通過していないアローやゲートを逆方向から通過  
※一度通過したアローやゲートは再通過可  
※その場合は新たな番号までは通過は任意

その他

**追加のペナルティ**

セクション毎にカードに通常記入 (パンチ) される点数とは別に課せられる罰則点

外部からの援助 (セクション走行中の競技者への助言など): -100ポイント

※ 下見中の助言や、危険箇所です許可を得てセクション内に待機することは許される

カードを紛失する、あるいはセクションを抜かず: -100ポイント

ナンバープレートまたはゼッケンの規定を尊重しない: -100ポイント

## ※ セクション制限時間について

(2021年版)

- 制限時間は2分とし、超過したら5点となり走行終了。

★秒単位で判定する (2分00秒99なら2分で超過なし)

## ※ 競技時間について

- 競技時間とは、競技開始から、全てのセクションの走行を終えて、スコアカードを大会本部に返却するまでの時間。  
(2021年大会では選手に配布した番号札がスコアカードの代りとなる)

- 設定された基準タイム内に競技を終了できなかった場合は  
... 1分毎に-10ポイント

★分単位で判定する

例) 制限時間が2時間30分の場合  
2時間30分59秒99までは超過ペナルティなし  
2時間31分になった時点で-10ポイント

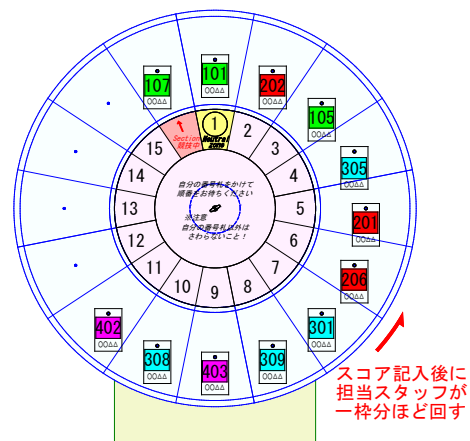
セクション修復などのトラブル発生により  
待機が生じた場合⇒3分以上は記録  
(スコアボードにどの選手が何分かを記入)

## ※ スコアカードについて

(2021年版)

- 選手にはスコアカードの代わりに番号札を配布する。  
(番号札にスコアは記入せず、セクション待ちと時間管理に利用)

- ・選手が順番ボードに自身の番号札をかける  
※原則的にはトライせずに番号札の返却はできない  
※セクション補修等で待機となった場合は除く  
(他にトラブルがあった場合も主審の判断による)
- ・順番ボードにかけられた順に選手はトライ  
※どうしてもトライできない場合は最後に回すor返却  
(原則はニュートラルゾーンに入る段階でのみ対応)
- ・次の順番の選手はニュートラルゾーンに待機する



### スコアボード担当の作業の流れ

- ・スタート前に主審に選手のNoとカテゴリー色を示す  
※順番ボードとスタートする選手が合っているか確認

- ・主審の合図で選手はニュートラルゾーンからスタート

- ・次の選手をニュートラルゾーンに待機させる

- ・選手がセクション走行を終えたら  
※審判は獲得ポイントを示す(0,10,20,30,40,50,60)  
※スコアボード担当はポイントを再確認する

- ・順番ボードのNoと選手名を再確認してスコアボードに記入する  
※選手にも記入したポイントの確認をうながす

- ・選手が順番ボードから自身の番号札をとる

- ・順番ボードを1人分ほど回転させる

### 順番ボードと番号札

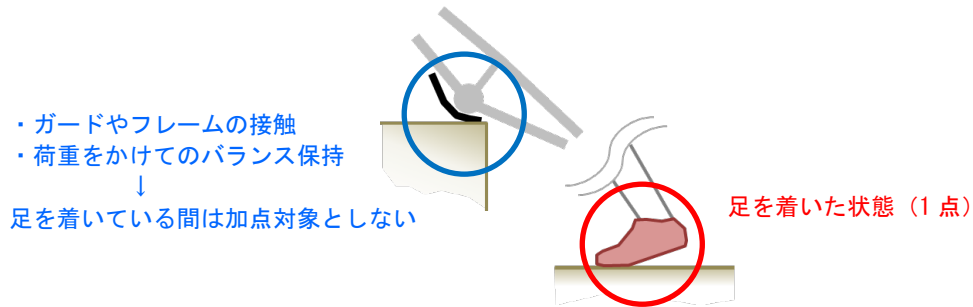
(キャッシュカード大)

番号札にチェック

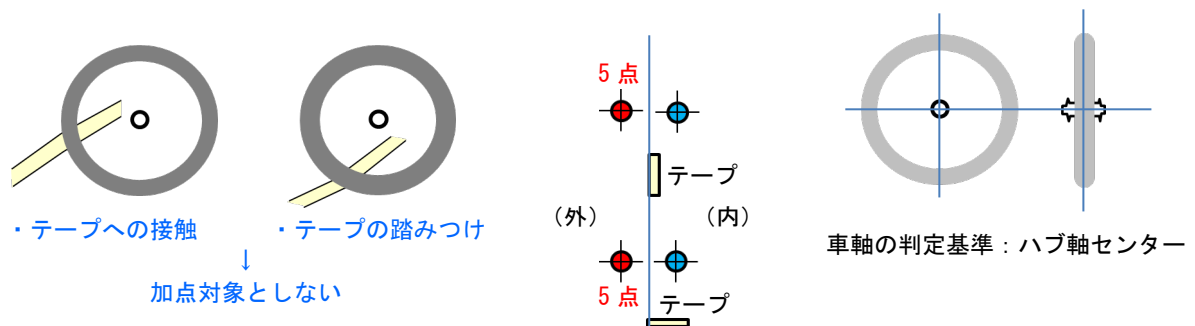
## 国内大会におけるルール運用の目安

※主に競技現場において求められる判定の目安について、JBTAにより補足したものです。(一部表記を変更)

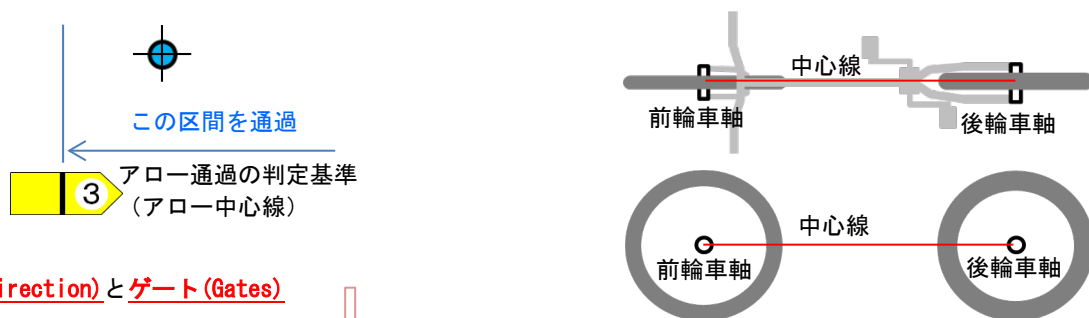
- 1) 足を着いた状態であれば、ガードやフレームが接触する、または、荷重をかけてバランス保持しても、新たな加点对象としない。(足着きの1点のみ) (足が離れた時点で接触等があれば加点)



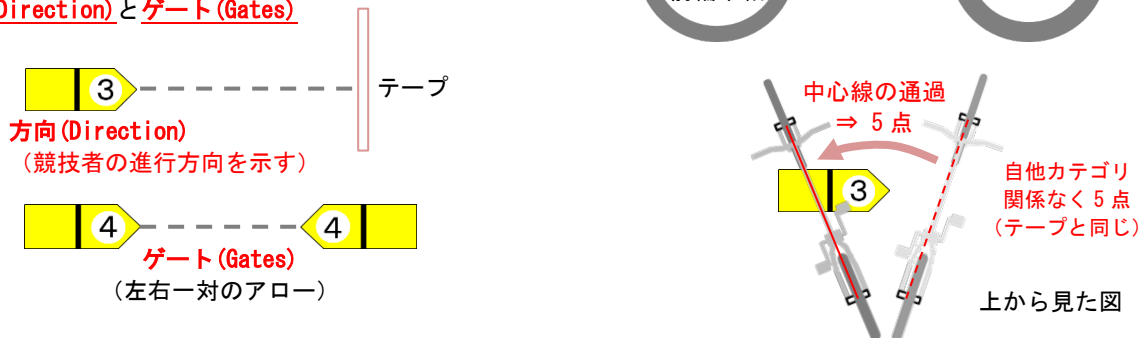
- 2) コーステープへの接触や踏みつけは加点对象とせず、あくまでも車軸で判断し、車軸がテープの上または下を通過した(超えた)場合は5点とする。(車軸の判定基準はハブ軸センターとする)



- 3) アロー (矢印) 通過の判定基準はアロー中心にひかれた線とする。前後輪の車軸および前後車軸を結ぶ自転車の中心線がアロー中心線の上または下を通過した(超えた)場合は5点とする。(タイヤ等がアローに接触しただけでは加点对象としない) (2021/06/19: アロー、方向、ゲートの説明を追記)



- 4) **方向 (Direction)** と **ゲート (Gates)**



- 5) アローの破損、アローを落とす、コーステープを切断する等、セクションの修復が必要となった場合は5点とする。

2021年6月19日  
JBTA 日本自転車トライアル協会